

【千光寺・役行者と修験の道】

—推定:太子創建「学びの道場」の地を訪ねる—

《コース》 元山上口駅出口広場出発 10:15 ⇒ 櫟(いち)原(はら)橋 ⇒ 生駒山口神社 ⇒ 神前橋 ⇒ 2本杉(休憩) ⇒ 清滝石仏群 11:30 ⇒ 揺(ゆ)るぎ地蔵 ⇒ 行場 ⇒ 千光寺山門(昼食) ⇒ 千光寺出発 ⇒ 揺るぎ地蔵 ⇒ 金勝寺 ⇒ 元山上口駅 15:00(解散)



元山上口駅前で小坂サークル長点呼
本日の担当 公門、佐藤、西村、藤本



出発前のストレッチ



櫟原勧請網(しではらかんじょうつな)



元山上口駅前に道標



生駒山口神社へ向かう



75段の石段を上り生駒山口神社境内へ



生駒山口神社



生駒山口神社



角がある狛犬(女?角隠しを被るから)



狛犬(男?)



元山上口駅近くの龍田川に屋根付きの橋があった名残り



禊場



首無し地蔵



二本杉に向かう



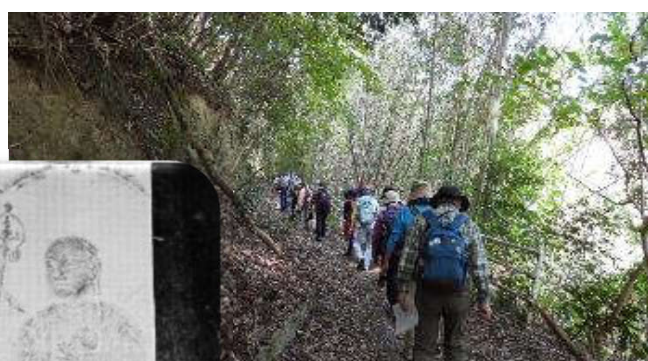
二本杉(杉と檜)石仏が並ぶ



フラワーロード



清滝石仏群へ向かう



八尺地蔵磨崖仏 鳴川川に沿った千光寺の旧参道両側に刻まれている磨崖石仏群。



線刻地蔵立像は、行場の一つである清の滝の崖面に刻まれている。八尺地蔵と呼ばれるが、実際はさらに大きく、総高3.37m、仏身が2.9mあり、頭光月輪径は1.0mを計る。蓮華座上に立ち、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿で、頭部は薄肉彫りで、他を線刻で表現している。



磨崖石仏群



五尊仏と向き合うように上部に阿弥陀三尊の種字を刻んだ三界萬霊供養磨崖碑



横長の彫り込み内に釈迦・薬師・地藏・弥勒・阿弥陀の五尊の座像(仏身35cm)(かつては五智如来と呼ばれていた。)



仏身68cmの法螺(ほら)吹き地藏



船型の彫り込み内に仏身41cmのはらみ地藏



揺るぎ地藏



行場へ



行場



川の中に白玉龍神



竹藪の向こうに行場の岩



山道



千光寺到着



水車発電装置(鳴川の自然流水を利用)



昼食休憩



千光寺山門

千光寺の縁起

修験道の祖である役小角(えんのおづぬ)は、舒明天皇6年(634年)元日、出雲の国の高賀茂問賀介磨(まかげまろ)と賀茂役氏の娘の白専女(しらとうめ)の子として、大和国葛木上郡茅原の郷に生まれました。幼少期の時より山に入り、修行を積み、修験道を開かれました。後に成人し、金剛葛城山において仏道修業に励まれました。西暦660年頃、生駒明神に参拝の折にご神託により鳴川の里に入り、小さな草堂を建て、將軍木(ウルシの木)で千手観音を刻んで安置しました。その後、天武天皇が国家鎮護を願って伽藍を建立し、「千光寺」と名付け、寺領500石を下し賜われました。



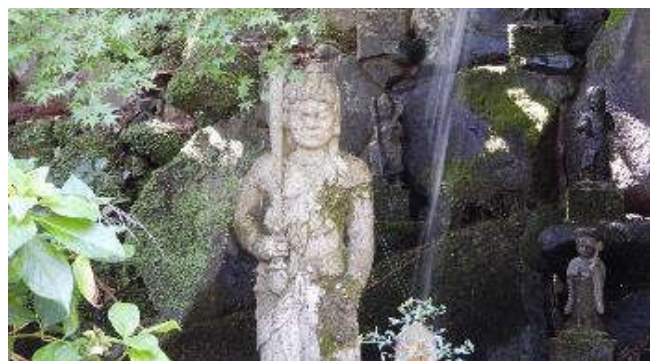
石段左側に右すぐひょうたん山道標

表門

石段右に右生駒山 宝山寺道標



子宝、縁結び



不動明王像



役行者像が多数



観音堂



観音堂内部



弁財天



十三重層塔



行者街加棧?? 祠



護摩焚き場



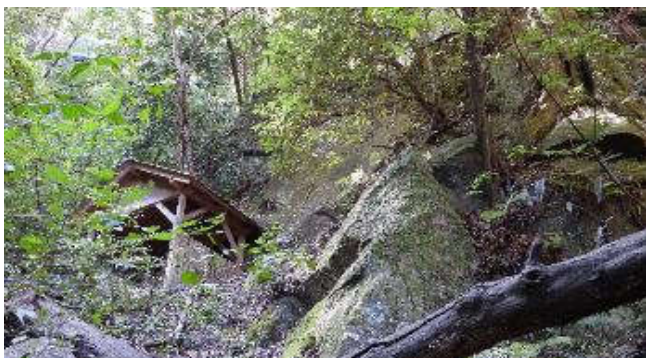
大師堂



行者堂



役行者・前鬼・後鬼像



行場

行者堂(開山堂)の本尊として祀られる三尊像で、中央に役行者が座し、左右に斧を持つ前鬼と壺を持つ後鬼が片膝をついて従っている。千光寺は、その縁起によると役行者が大峰山を開く前に修行を行っていた場とされ、裏行場には遠く大峰山を望む「遠見ヶ嶽」があり、寺の山号として「鳴川山元山上」の名が伝えられている。



護摩焚き場と行者堂





集合して金勝寺へ



ほら貝の飾瓦



山門にスズメバチの巣



金勝寺への道中



コスモス



サフラン



すぐ金勝寺



金勝寺到着



本堂



本尊薬師如来坐像



お地蔵さん



梵鐘



金勝寺磨崖石仏群



茶々逆修石仏(文字が彫られている)





摩崖仏を見学



本堂



表門



かんじょう網



元山上口駅で解散